



誰もがその人らしく 安心して暮らせる 福祉のまちづくり

多良木町社協だより

スマッキング



ご存知ですか？ 災害発生後に被災者に寄り添い、支えるボランティアを

地震や土砂崩れ、豪雨などの災害時、不安な状況にある被災者に寄り添い支える災害ボランティア。球磨郡内で行われる災害ボランティアセンターの設置訓練に毎年たくさんの人々が参加されています。だれかが困ったとき、手を差し伸べるために。

社会法人 多良木町社会福祉協議会 平成26年12月11日発行

〒868-0501 熊本県球磨郡多良木町大字多良木1571番地1 ☎(0966)42-1112 FAX(0966)42-1113

ふれあいネットワーク

災害ボランティアとは？



▲[左上]津波によって打ち上げられ、ビルに乗り上げた観光船（東日本大震災：岩手県）、[右上]津波によって押し流された乗用車（東日本大震災：宮城県）
[左下]液状化して飛び出したマンホール（東日本大震災：千葉県）、[右下]災害ボランティア等によって土のう詰めされた土砂（九州北部豪雨災害：岡崎市）

災 害の発生後、被災地の復旧、復興や被災された人たちへの寄り添い、お手伝いなどを目的としたボランティア活動です。自然災害等に見舞われた地域に全国から自発的に少しでも力になりたいという思いを持つ人たち（ボランティア）が集まります。平成23年3月に発生した東日本大震災では、発生後から約1年間で92万6千名が活動されて^{※1}、平成24年7月に発生した九州北部豪雨災害では、約1カ月間で熊本県内だけでも、2万4千人^{※2}を超えるボランティアが全国各地から駆けつけました。このようなボランティアは、被災地で困っている人を手助けしたい、人を支え役に立ちたいと思っている人たちで学生や企業の従業員、災害ボランティアの経験がある専門家など様々な人たちが活動されます。また、被災地での災害ボランティア活動も被災者の希望・要望（支援ニーズ）に応じて避難所のお手伝い、話し相手、足湯、家の片づけ、水害の場合の泥だし、復興期における地域おこしの手伝いなど、広範囲にわたる活動を行い、復



▲[左上]土砂により崩壊した家屋(九州北部豪雨災害：阿蘇市)、[右上]河川の氾濫によりガードレールにひっかかったままのゴミ(九州北部豪雨災害：阿蘇市)
[左下]洪水により倒されたフェンス(九州北部豪雨災害：阿蘇市)、[右下]大規模な地滑りに巻き込まれた集落(九州北部豪雨災害：阿蘇市)

旧・復興のあらゆる局面において大きな役割を果たしています。

- ※1 東日本大震災災害ボランティアセンター報告書
全国社会福祉協議会（全国ボランティア・市民活動センター）
※2 「災害ボランティアセンターの必要性と社会福祉協議会が運営する意義について」
熊本県社会福祉協議会（熊本県ボランティアセンター）

地縁血縁を通じた助け合いは
災害の多い日本で
古くから
行われています



掲載しております写真については、一部を全国社会福祉協議会並びに
熊本県社会福祉協議会のホームページよりご提供いただきました。

- 1 災害救援ボランティア活動は、ボランティア本人の自発的な意思と責任により被災地での活動に参加・行動することが基本です。
- 2 まずは、自分自身で被災地の情報を収集し、現地に行くか、行かないかを判断することです。家族の理解も大切です。その際には、必ず現地に設置されている災害ボランティアセンターに事前に連絡し、ボランティア活動への参加方法や注意点について確認してください。災害ボランティアセンターの連絡先は、本会(全国社会福祉協議会)のホームページでもお知らせしています。
- 3 被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合があります。安全や健康についてボランティアが自分自身で管理することであることを理解したうえで参加してください。 体調が悪ければ、参加を中止することが肝心です。
- 4 被災地で活動する際の宿所は、ボランティア自身が事前に被災地の状況を確認し、手配してください。水、食料、その他身の回りのものについてもボランティア自身が事前に用意し、携行のうえ被災地でのボランティア活動を開始してください。
- 5 被災地に到着した後は、必ず災害救援ボランティアセンターを訪れ、ボランティア活動の登録を行ってください。
- 6 被災地における緊急連絡先・連絡網を必ず確認するとともに、地理や気候等周辺環境を把握したうえで活動してください。
- 7 被災地では、被災した方々の気持ちやプライバシーに十分配慮し、マナーある行動と言葉づかいでボランティア活動に参加してください。
- 8 被災地では、必ず災害救援ボランティアセンター やボランティアコーディネーター等、現地受け入れ機関の指示、指導に従って活動してください。単独行動はできるだけ避けてください。組織的に活動することで、より大きな力となることができます。
- 9 自分にできる範囲の活動を行ってください。休憩を心掛けましょう。無理な活動は、思わぬ事故につながり、かえって被災地の人々の負担となってしまいます。
- 10 備えとして、ボランティア活動保険に加入しましょう。

全国社会福祉協議会ホームページより

実際の被災地では、災害ボランティアは
次のようなことに注意して活動されます。



災害ボランティアと 災害ボランティアセンター



▲[左上]災害ボランティアセンター(東日本大震災:福島県)、[右上]災害ボランティアセンターに集まったボランティア(東日本大震災:千葉県)
[左下]災害ボランティアセンター(東日本大震災:宮城県)、[右下]多くのボランティアを送りだした“ボランティアバス”(東日本大震災:岩手県)

災

害が多い日本では古くから
大規模な災害が発生する

と、地縁血縁を通じた助け合いが行
われてきましたが、現在のよう
になったのは、平成7年1月に発
生した阪神・淡路大震災の時から
で、全国各地から137万人以上も
のボランティアが駆けつけ「ボラン
ティア元年」と呼ばれています。しか
し、この時の活動で、ボランティアの
殺到による大混乱から次のような
課題がのこりました。

- ①被災者がお願いしていない作業
をしたり、ボランティアが危険な
作業をお願いされるなどのミス
マッチが多発した。
- ②すでに片付け等が終わっている
被災者宅に何度もボランティア
が訪問する。
- ③被災地の食料や水を消費したり、
避難所に寝泊りしたり、ゴミを捨
てて帰るなどの迷惑ボランティア
が横行した。
- ④ボランティアを装った盗難・窃盗
事件が多発した。

以上のことが災害ボランティアセ



▲阿蘇市災害ボランティアセンターにて、[左上]ボランティアへ活動先の説明(九州北部豪雨災害：阿蘇市)
[右上・左下・右下]全国から寄せられた災害ボランティア活動用の資材(九州北部豪雨災害：阿蘇市)



▲災害ボランティアセンター(東日本大震災：岩手県)



ンター機能の確立の教訓・起源となりました。災害ボランティアセンターでは被災地の希望・要望（支援ニーズ）の把握・整理を行うとともに、活動を希望するボランティアの受け入れ調整や活動先と組み合わせる活動を行っています。